

誰かの笑顔に繋がる税であるために

島本町立第二中学校 3年 生越 莉子

私の祖父は田舎の街で一人暮らしをしている。田んぼが広がり大きな夕日が見える景色は綺麗で大好きだが、生活面では不便もある。日常で行くスーパーや病院は歩いて行ける範囲ではなく、どうしても車に乗らなければいけない。私は、高齢者の事故のニュースを見ると胸がギュッとなる。祖父に会うと、元気で変わりない様子だが運動能力や認知能力の衰えは目にはわからない。私は市内で目にしたコミュニティバスの話をした。祖父は「初めは便利で病院までよく乗ったよ。だけど、利用者が減って税金の無駄使いであることが指摘されたから現在は走る本数がだいぶ減ってしまったよ。」と難しい顔をして言った。免許返納する機会を考えてはいるようだが、不便になってしまう。確かに誰も乗っていないバスがぐるぐると走っている姿は税金の無駄使いに見えるだろう。無駄使いにならないよう有効的手段で高齢者向けの便利な交通サービスを考えられないだろうか。他の地域には予約システムのあるバスやタクシー補助券、町内会やNPOが送迎する有償ボランティアなどの新たな取り組みがあることを知った。実際にコミュニティバスは運賃で経費をまかなうことは難しく多くの公的資金を利用している。運賃も一律に一〇〇円などの安さ重視ではなく長く運営するために既存のバスなどと連携をとることも必要だろう。祖父が住む愛知県のコミュニティバスは一年間にだいたい五千万円の公的資金を使っている。私たちは税金の無駄使いを無くし、どのようにしたら必要な人に有効的に税金を利用できるかを考えることが必要だと思った。そうすれば、税金の無駄使いだという批判的考え方ではなく、有効活用されているという納得的考え方を浸透していくと思った。税金を納める人も税金利用によって便利になる人も双方が嬉しい社会になると思う。日本は少子高齢化社会へと変化している。税を納める人は減っていき福祉や医療の税負担は増えていく。今まで通りの税金の使い方ではなく新しい視点も必要だろう。そして税は全ての年齢層に平等に有意義なものであって欲しいと願う。子を産み、育てる環境を良くすることは未来の若い家族や子ども達の助けになるだろうし、高齢者にとって便利で住みやすい社会であって欲しい。私たちは税の意義や目的を理解し、これから直面する日本の問題に対応する必要がある。私は未来の担い手として税についてしっかりと学び、祖父のように困っている人に届く税利用や税の無駄を無くす知識を実践できる大人になりたい。まずはすぐにできる税金の無駄使いをやめたい。毎日出るゴミをしっかりと分別することや学校の備品を大切にすることも税金の無駄を無くす。税の深い知識は、より良い社会を作る基盤となっていくため、身近な人の笑顔を思い浮かべながら、未来へと考えを紡いでいきたい。税によって私たちの生活の質が上がる明るい未来を目指して。